太田大臣故郷を走る

この地には夢がある、未来がある

（下）

愛大地域政策学センター研究員
地方政治クリエイト
伊藤 秀昭

■この地には夢がある

全国で人口減少と高齢化によりどう生き抜いていくのかに悪戦苦闘している中で、この東三河地域は未来があり、夢がある地域だ。

山があり、川があり、海、そして港、浜松遠州との連携、飯田南信との交流、穏やかな風土とポテンシャルの高さ、その安定したバランス。ここは非常に我が国の今後の発展に寄与する地域だ。

■この地の未来を応援したい

今や、故郷の新城は豊橋から飯田線に乗って一宮とか、牛久保とか各駅停車で山の中へどんどん入っていくという新城ではない。

新東名と東名の間に挟まれて、豊根村や東栄町、新城市、蒲郡市などそれぞれのまちが、未来に向かって取り組んでいることは素晴らしいことだと思っている。未来という言葉がぴったりな地域だ。

2050年に向けて、国のグランドデザインを考えている中で、やっと政治が未来に向けてものを考えられる時代になった。高齢化の中で、人口減少をどう生きていくかと苦しんでいる時に、この地域をよく知るものとして、きめ細かく応援していきたい。

三河港は全国で唯一、外国の車が入ってくるところであり、より使いやすい、より強い港にしていかなければならない。

■東三河をよろしく

2050年には63％の地域で人口が半分になる。その中でどう生き抜くかということになれば、若い人がどう住みつくか、若い人が子どもを育てやすい地域づくりが肝要。

新城市で生まれ、豊橋市で育った私自身から「東三河をよろしくお願いします」という思いで、応援していきたい。

◆

生まれ育った新城のまちや、小学5年生まで通った新城小学校を通り、少年時代に遊んだ桜渕公園で昼食をとり、新城から豊橋へ飯田線沿いを走り抜けた太田大臣。

小学生の頃に父母に連れられて、豊橋のまちへ向かった車窓の風景と、50年たってから見る車窓の風景に懐かしさと、この地の発展への熱い思いが交錯していたのであろう。精力的な視察行の中で「久しぶりのふるさとがうれしい」と顔もほころんでいた。

視察のために三河港を訪れた太田昭宏国土交通大臣（中央）＝19日撮影